



(NO FENCE IN NORTH KOREA)

NO FENCE

E-mail: nf-staff@netlive.ne.jp

北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会「NO FENCE」
会報 かいほう ノーフェンス

NO FENCE

歴史に禍根を残さないために、人間の誇りとして閉じ込められた人々を放置しない。

vol. **9**

2010年8月

〒102-0093 千代田区平河町1-5-7-203 TEL&FAX 03-3262-7473 <http://nofence.netlive.ne.jp> 【郵便振替口座】 NO FENCE / 00180-1-707147



▶ INDEX ◀

- NO FENCE 最近の活動 2
- 北朝鮮のNEWS /
デノミ責任理由に公開処刑や収容所送り 3
- 証言集会報告 / 姜氏、
日本人配偶者の収監実態を語る 宋 允復 4
- 徐京錫氏講演から教えられたこと ... 小川晴久 6
- 「基礎知識 8」 「強制収容所は憲法違反」 ... 小川晴久 8
- 楽曲「NO FENCE」歌詞 9
- 「詰め将棋から学ぶ」 小沢木理 10

私たちは何をすべきか 北朝鮮人権問題に対して

北朝鮮人権問題について、韓国市民団体「報告書」で提言



韓国の市民社会運動活動家



★北朝鮮人権問題打開への方策を「韓国市民団体報告書」から探る



解決へのストーリーは描けているのか?

Close-up





わたしたちは、世界中の人権侵害にあっている人たちに心痛め、その原因に抗議します。わたしたちは、その中で、北朝鮮の強制収容所から奇跡的に逃れられた収容所体験者の話しを聞く機会を得、その実態を知り、秘密裏に存続し続けている北朝鮮の強制収容所の廃絶に取り組んでいます。それには、多くの人の関心と力が必要です。

5月15日

第二回総会

2009年度の活動報告と会計報告、
ならびに活動成果と課題について報告。

総会

(第二回総会) 成果と課題

『小さな敵はできた。クワ手に持つ人はやはり少なし。』
～二年前築いた小さな礎に、地道にひとつ石を積み上げた～

(第一回総会) 成果と課題

『畑には立った。クワ手に持つ人は少なし。』
～小さいながら礎は築いた。あとはひとつひとつ石積みが～

救う会や北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会が日本での実行委員となり、韓国の市民団体と共同で、北朝鮮へ向けて風船を飛ばしました。その共同団体のひとつとしてNO FENCEも名前を挙げました。

経理事務は、救う会。詳細は、北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会ホームページを参照ください。対北風船ビラの募金も受付中。

<http://hrnk.trycomp.net/news.php?eid=00270>

募金先

- (1) 郵便局備付けの郵便振替用紙 00140-0-346130 対北風船ビラ日本実行委員会
- (2) 各金融機関から郵便振替口座への振込 店名019 預金種目 当座口座番号 0346130
- (3) 銀行口座 みずほ銀行 池袋支店(230) 普通預金 1541816 対北風船ビラ日本実行委員会

情報やモノ



イベント

5月12日 収容所体験者カン・チョルフアン氏証言会

衆議院会館の会場に、100名近い参加者があり、
会場は熱気に包まれました。

日本人妻たちの強制収容所
について証言。

シン・ドンヒョク氏は来日直前、交通事故で急遽来日中止に。
カン・チョルフアン氏証言の報告は、本会報の4～5頁ご覧下さい。

※ NO FENCE のホームページから、証言録画が見れます。

強制収容所脱出者来日・証言集会

私たちはいつでも証言します。

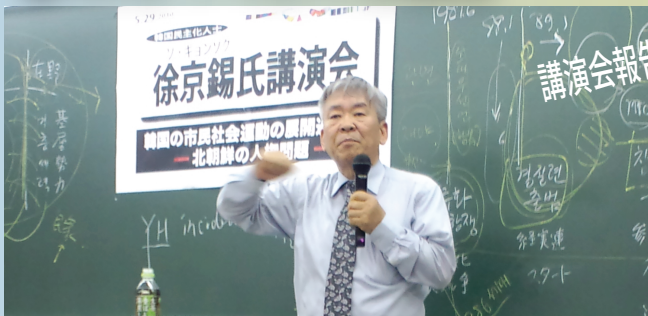
シン・ドンヒョク氏
カン・チョルフアン氏

北朝鮮強制収容所
の実態を訴えます

5月12日(水) 2010年
13:30~15:30
衆議院第一議員会館

NO FENCE

5月29日 ソ・ギョンスク氏講演会



講演会報告は、6頁に。

韓国民権化人士 ソ・ギョンスク 徐京錫氏講演会

演題 韓国の市民社会運動の展開過程と
北朝鮮の人権問題



ソ・ギョンスク氏は、長い韓国の軍事政権と闘い、それを終わらせた民主陣営の中から登壇した、北朝鮮の人権擁護と闘う人のひとり。

1970年代に二回、80年の始めに一回、計三回投獄された。1982年～6年間アメリカの神学校に留学し、牧師資格を取得。アメリカで市民運動を知り、且つ全斗煥軍事政権と闘う3000人規模の集会を組織し、帰国後、1989年に経済正義実践市民運動連合という市民が主人公となる新しい市民組織を韓国で創出。

氏は、いつどのようにして北朝鮮の人権抑圧状況に気付いたのか、北朝鮮人権問題に取り組み出したのか、当日はこのようなお話しを演説をもとにお聞きします。

人権問題、市民社会運動に関心のあるご友人をお誘いし是非お出かけ下さい。

2010年
5/29(土) 午後1時~4時

●専修大学(神田) 2号館 204号教室

- *101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8 アクセシビリティ <http://www.senshu-u-linfo/navi/kanda.html>
- *交通機関 (京) 西口より徒歩7分
- *バス路線 (地下鉄) 有楽町線、有楽町線、半蔵門線 出口5より徒歩3分
- *神保町駅 (地下鉄) 都営三田線、都営有楽町線、半蔵門線 出口A2より徒歩3分

NO FENCE IN NORTH KOREA
主催: NO FENCE (北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会)

〒102-0063 千代田区千代田1-6-1-203 電話: TEL. 080-9329-7734 <http://nofence.net/jp-e-mail: nfstaff@netfive.ne.jp>

講演では、「韓国の市民社会運動の展開過程と北朝鮮の人権問題」を熱く語る。
そのあと、日韓の市民活動の連携を模索するミーティングが別室でもたれました。



ミーティングでは、ソ氏と、同行した若いふたりの牧師さん頭を絞って、良案考えています。



気持ちだけは前向きに。
講演会後に、有志と記念撮影。

<今後の予定>

- 8月19日～ カナダのトロントで、北朝鮮人権問題国際会議に出席予定
- 11月、人権サミット /ソウルに、参加予定

<Wow! Korea / 2010.7 から転載>

北が朴南基氏の親族・姻族を収容所に移送

【2010年7月7日 Wow! Korea】

北朝鮮が昨年11月末に実施したデノミネーション(通貨呼称単位の変更)の失敗の責任を負わされ、ことし3月に処刑された朴南基(パク・ナムギ)前朝鮮労働党計画財政部長や他の関連幹部の親族・姻族34世帯が、先月14日に咸鏡北道・会寧の「第22号管理所(政治犯収容所)」に移送されたようだ。

対北朝鮮人権団体「良き友人」が7日、北朝鮮保安当局幹部の言葉を引用して伝えた。国家安全保衛部の指示により、夜に突然、病気の人も含め全員が受刑者用の有蓋車(貨車)で連行されたと伝えられる。

護送には有蓋車8台と完全武装した軍人を乗せた車両3台が動員された。海外から人権侵害などと指摘されるため、深夜に護送し住民が目撃できないようにしたという。

同団体代表を務める法輪僧侶は先月(6月)14日の記者会見で、「(北朝鮮当局が)朴南基部長と他の1人を『宗派主義者に買収されたスパイ』として順安射撃場で公開処刑し、残りの関連者10人余りも姜健軍官学校の校庭で処刑した。朴部長の家族は7親等まで管理所に送られた」と伝えていた。

テノミの失敗の責任を負わされ

北が朴南基氏の親族・姻族を収容所に移送

パク・ナムギ

● 朴氏らは、公開処刑
● 朴氏の家族は七親等まで収容所送り
● 対北朝鮮人権団体が発表

開城など北朝鮮各地で集中豪雨、被害も続出

【10年7月29日 Wow! Korea】

北朝鮮の朝鮮中央テレビは29日、開城など各地で集中豪雨に見舞われ、被害が続出していると報じた。

朝鮮中央テレビによると、50年ぶりに最高降雨量を更新した開城では12～19日だけで地域により最高324ミリ(平均300ミリ)の雨が降り、最も大きな被害を受けた。特に、22日夕方にはわずか3時間で128ミリの雨が降り、約2850種の田畑が浸水したほか、橋や家屋、複数の道路が流失する被害が発生した。

江原道でも被害は深刻で、23日午前5時前後に降った集中豪雨が元山青年発電所から放流される水と合流し、平壤と元山の間にある観光道路30メートルが陥没した。また、道路の下の上水道管などが破壊されたほか、発電所の通信ケーブルが切断され、電力生産にも支障が出ていると伝えた。

慈江道も22日夕方から23日未明にかけて大雨に見舞われ、23日の一日だけで630戸余りの家屋が浸水または崩壊し、20か所の道路と橋、約495万平方メートルの田畑が流失した。

朝鮮中央テレビは18～20日に大雨が降った咸鏡南道新興郡の被害状況を報じ、同地域の鉱山で働く労働者らが危険な状態に陥ったが、ヘリコプターで救助されたと伝えた。同地域では220戸の家屋と65棟の公共施設が倒壊し、橋や道路、田畑が浸水した。

北朝鮮では2007年8月、集中豪雨で約500人が死亡また行方不明となり、90万人以上の被災者が発生した。1995年から1990年代末までは毎年洪水と干ばつが繰り返され、数百万人が餓死したとされる「苦難の行軍」という最悪の飢餓状態が続いた。

対北人道支援助物資の輸送2件を承認、統一部

【10年7月9日 Wow! Korea】

統一部は9日、対北朝鮮支援団体が申請した乳幼児などへの支援用物資の北朝鮮輸送2件を承認したと明らかにした。承認された物資は、黄海北道沙里院市の乳幼児に送る小麦粉95トン、9市・道の乳幼児と障害者に向けた小麦粉300トン、粉ミルク19トンで、総額5億9900万ウォン(約4430万円)相当。

政府は北朝鮮魚雷による韓国哨戒艦「天安」沈没事件を受け5月24日に対北朝鮮制裁措置を発表、原則として対北朝鮮支援は保留とした。ただ、弱者への支援は選別して承認するという方針に基づき、同日以降、これまでに11件の人道支援を承認した。

強制収容所体験者

姜哲煥氏証言集会●報告

カン・チョルフアン

SONG, Yoon Bok

宋 允復

日本人配偶者の 強制収容所収監の 実態を語る



証言者/カン・チョルフアンさん

5月12日(水)衆議院第一議員会館において、姜哲煥(カン・チョルフアン)氏を招き、北朝鮮強制収容所の実態に関する証言集会を開催した。

今回は特に国会議員を対象に、収容所における日本人に重点を置いて証言していただいた。

この企画は、参議院予算委員会(3月15日)における質疑がきっかけとなった。
<http://kokkai.ndl.go.jp/SENTAKU/sangii/n/174/0014/17403150014012a.html>

山根隆治議員の質問に対し、岡田外務大臣は「日本人配偶者が強制収容所にいるかどうかということについて確固たる情報を持っているわけではない」旨答弁した。

そこで、七十年代後半から八十年代後半の状況ではあるが、当時ヨドク収容所に収監されていた日本人について知り得

姜哲煥氏証言要旨

1959年から北朝鮮に渡った在日朝鮮人、日本人配偶者が体制を脅かす要因になった。

1970年代初頭に金日成が剣徳(コムドク)鉱山を現地指導した際、そこに配置されていた日本人妻十数名が「日本に里帰りさせてほしい」と金日成に直訴した。

平壤にいた上流層の日本人妻たちも里帰りを求める署名集めをした。

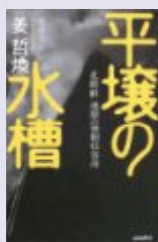
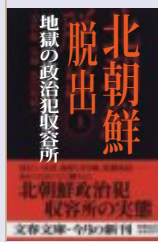
これをきっかけに金日成が「在日出身も共和国の法の通り執行せよ」と指示。

姜哲煥氏一家は77年にヨドク収容所に収監されたが、それ以前から日本で総連の幹部をやっていた人たちが多数「行方不明」になっていた。収容所送りも始まった。

ヨドク収容所に入ると、そこには在日朝鮮人だけを5千人ほど収監する村が別途しつらえてあった。収容所の草創期には在日朝鮮人も散り散りばらばらに収監していたが、彼らが日本での暮らしぶりなどを話して悪影響を及ぼすので、75年から別途囲い込まれていた。

○姜哲煥氏が収容所で親しくしていた同世代の「リ・ハンウ」の父親は北朝鮮で有名な俳優で、母は日本人だった。日本で恋愛関係にあり、北朝鮮に帰国する恋人を見送りに港に来たのだが、感情が高まり何の準備もなく手ぶらで船に乗り一緒に北朝鮮に渡ったという。

父はスパイとして処刑され、残された家族も本来は収容所から出られないはずであったが、



(カン・チョルフアン氏の著書)

2010年5月12日
強制収容所脱出者来日・証言集会より

私たちはいつでも証言します。 北朝鮮強制収容所の実態を。そして廃絶を訴えます。

88年に突然釈放された。その際、収容所でドングリを食べ続けて黒くなった歯を白くするために、収容所当局が歯磨き粉と歯ブラシを与え、一か月間磨かせたという。

その理由は、その日本人の母の父が日本で40億円という莫大な遺産を娘に残し、それを相続させるためであった。

日本の親族は「総連には遺産を渡せない」と裁判を起こしたが、総連は北朝鮮に働きかけ、娘に「朝鮮総連を通じて遺産は私が引き継ぎます」との覚書を書かせた。

そのようにして北朝鮮は40億円を手に入れ、そのうち2千万円だけを北朝鮮にいる家族に渡したという。収容所で乞食の暮らしをしていたそのリ・ハンウの家族は、平壤近郊に移されて金持ちとなった。

その日本人妻は収容所の暮らしで衰弱していたので、すでに亡くなっていると思われる。

これは莫大な遺産があったための特例であり、そうした係累のない、財産のない在日は人間扱いはされていない。

○姜氏の祖母と親しかった朝鮮名「ホン・バクソン」という日本人妻(日本名は分らず)は、平壤で日本人妻の里帰り嘆願署名に関わった人であった。この人から直接聞いた話では、署名集めを主導した人はみな処刑され、末端に関わった人たちは収容所に送られた。

○姜氏が記憶している日本人妻は20人ほど(もったいはずだが関心がなかった)。そのうち生きて出られたのは3人。

○1984年ごろに日本から祖国訪問団として北朝鮮を訪問した在日家族がそのまま収容所送りになったケースがあった。李世鳳(リ・セボン)、李美花(リ・ミファ)の兄妹とその母。

父は先に帰国していてスパイとして捕まっていた、おそらく連帯処罰する意図で家族を呼び寄せ収容所送りにしたと思われる。

収容所に入った当初、李セボンたちは朝鮮語が一言もできず、からかわれ殴られながら適応に苦勞し、セボン本人は栄養失調もあって下半身不随になり歩けなくなった。

姜氏が韓国亡命後に書籍で公表し、その後まもなく李セボンたちは収容所から出された。

これは事実上の拉致である。日本の親族には「事故で死んだ」と嘘の報告をしていた。

○1985年以降、朝鮮総連内部で騒ぎになり、日本に親族がいる人を一部釈放した。

○朝鮮総連は帰国した在日朝鮮人・日本人配偶者の救出のために北朝鮮に公式に提起したことはないし、帰国事業について謝罪したこともない。日本政府として朝鮮総連は強制解散させるべきである。

(質疑応答も多岐にわたった。証言集会の様子はNetLiveのご厚意により中継・録画していただいた。下記アドレスにてご覧ください)

http://www.netlive.ne.jp/archive/event/100512_NoFence.aspx

同証言集会には『収容所に生まれた僕は愛を知らない』著者の申東赫(シンドンヒョク)氏も参加の予定であったが、交通事故により医師から安静を命じられ来日が叶わなかった。

そのため、今年4月7日にブリュッセルで開催されたヨーロッパ議会・人権小委員会公聴会での様子を動画で紹介した。

申氏は、「収容所では『お前たちがこんなに苦勞するのはお前たちの親が罪を犯したからだ。だから親を恨め』と繰り返し刷り込まれ、親子であっても相互に密告しあうように教育される」「老人も死ぬまで強制労働に従事する」「収容所で生まれ育った子供には金日成、金正日についても教えない」等証言した。

会場確保を含め同集会開催には末松義規議員、山根隆治議員のご助力を得た。

また、21名の議員(ならびに秘書)を含め約90名のご参加をいただいた。

NO FENCEとしては超党派議員連盟の立ち上げも含め、引き続き国会への働きかけを続けていきたい。

(NO FENCE 事務局長)



ソ・ギョンソク

徐京錫氏講演から教えられたこと

—韓国市民運動の展開と北朝鮮の人権—

去る5月29日NO FENCEは韓国の著名な市民運動家であり、北韓(北朝鮮)人権団体協議会の代表である徐京錫牧師を東京にお招きし、上記副題に記したテーマでお話を伺った。講演は1時間半に及ぶ長いものであり、主題も二つに分かれるものであったので、今回はその要旨を報告者(小川)の責任で記させていた。若干解説を交えた要旨になることを、予めお断りし、お許しをいただきたい。

小川 晴久

〈徐京錫氏との出会い〉

今年の1月14日と15日の両日、ソウルで北朝鮮人権問題の会議が開かれた。日本から宋允復氏(当時守る会とNO FENCEの事務局長)と野口孝行氏(難民救援基金)が招かれ、参加された。その際この会議の主催団体の一つであった北韓人権団体協議会の代表徐京錫氏から二人に声がかかり、11月にソウルで開催する予定のG20人権サミットの準備として、4月に日本を訪問し、日本の北朝鮮人権NGOと会議を開きたい旨の申し出があった。1月下旬宋允復氏から報告を受けたNO FENCE世話人会(とりわけ私)は、まだ徐京錫氏がどういう経歴の人物であるか知識がなかった。2月に至り金芝河の作品「苦行—1974年」『苦行—獄中におけるわが闘い』335頁(中央公論社刊)に出てくる徐京錫なる人物と同一人物(1970年代初め統一革命党事件で金芝河よりも早く投獄されていた人物)であることがわかり、俄然私たちの関心を引くことになった。いわばこれがNO FENCEと氏との第2の出会いとなった。

韓国の民主化運動は苦難の1970年代・80年代を経て、今やほぼ完全に達成され、金泳三、金大中、盧武鉉の三人の大統領を出すまでに至った。民主化運動の中から北朝鮮の人権運動に取り組んでいる闘士の出現を、私たち北朝鮮人権NGOは長い間待望していたが、遂にそのような人物と出会えたのである。氏が私たちが期待する人物であることは、4月下旬彼に国際電話で始めて挨拶をし、彼に教えられた彼のホーム・ページに掲載されていた2005年以後の膨大な数の彼の文章を読むに至って、はっきりと確信することができた。金芝河救出運動に参加した一人として、私には特別にうれしい発見であった。ただ4月から5月にかけてNOFENCEとしては総会を開く時期であり、国会議員の中に北朝鮮の強制収容所問題で超党派の議員連盟をつくってもらうために申東赫・姜哲煥両氏を招き、証言を聞き取り組みもあったので(5月12日)、氏の招請は5月の末になり、その講演会も極めて少人数のものになってしまったのは、本当に申し訳ないことであった。ここで深くお詫び申し上げたい。講演内容は主催者の期待以上の素晴らしいものであった。以下要旨を記すことにする。

第一部 韓国の市民運動の展開

〈軍事政権・市民・在野〉と〈黒白論理〉

韓国は1961年から約30年間軍事政権が続いた。その間の韓国社会は、軍事政権(既得権勢力)・市民(中間層・70%)・在野(基層(労働者、農民)勢力)の3つの勢力に分かれていた。1987年6月29日盧泰愚は12月の大統領選挙を直接選挙にすると宣言して民主化の突破口は開かれたが、これを実現した1987・6民主化大抗争は基層勢力と中間層が協力し合い、一つになったことによって実現した。中間層の革命と言われている。

1970年代以降の韓国社会を支配していたのは黒白論理であった。三つの黒白論理が支配していた。マルクス・レーニン主義と主体思想とキリスト教解放神学である。1987年6月29日以降の学生運動の基盤は主体思想であった。1987年12月の大統領選挙は野党が候補者を一本化できず、金大中と金泳三が立候補したため、軍人盧泰愚が漁夫の利を占め、盧泰愚政権という軍事政権が継続した。盧泰愚政権は言論の自由を用意し、中間層を引き込もうとした。しかし基層勢力は依然として黒白論理で対応し、火炎瓶闘争を続けた。そのため中間層は基層勢力から離れた。

1989年3月文益煥牧師が秘密裏に平壤を訪問した。また学生運動圏も主体思想派であると宣言した。そのため中間層が盧泰愚政権と協力し、基層勢力を追放した。

〈経実連の誕生〉

このような事態の中で、再び中間層が基層勢力と協力する必要があると考え、新しい市民運動を起こすことになった。1989年7月に発足した**経済正義実現市民連合(経実連)**がそれである。当時地価やアパート価格が高騰し、土地やアパート所有者が労せずして資産を増やす社会的不公平が生じていた。労働争議も頻発していた。地価高騰問題の解決、賃金格差の解消、政経癒着と公務員汚職の追放、公正な金融と租税制度の確立、公害防止と環境保護など、社会の公平さ、公共性の立場に立つ新しい市民としての市民運動が始まったのである。徐京錫氏はこの運動の創案者であった。

〈参与連帯とのヘゲモニー争い〉

基層勢力を基盤に1995年参与連帯がスタートした。経実連と参与連帯はヘゲモニー争いをするようになった。参与連帯は2000年に落選落薦運動(国会議員選挙でかつて軍事政権に加担したものや議員として不

※【参与民主社会市民連帯】金泳三政権時代の1994年9月に発足した韓国における市民運動団体で、略称「参与連帯」。金大中政権以降、政治における発言権を拡大してきた市民運動団体の中でも有力な団体の一つ。参与連帯は、その活動方向として「市民参加、市民連帯、市民監視、市民代案」の4大活動方向を掲げている。(Wikipedia参考。編集者)

適格な行動をした者を落選させようと言う市民運動)を主導し、成功させた。経実連の半分位はこの運動に引き込まれた。私はこの運動に反対し、これ以後ニューライト運動を始めた。

〈「基督教社会責任」とニューライト運動〉

2002年6月二人の女子中学生が駐韓米軍装甲車にひき殺された事件に抗議して11月大規模なるうそくデモが行われた。反米運動であった。この運動が盧武鉉政権を誕生させた。しかし同時に保守勢力も使命感を持って表に登場した。2004年徐京錫氏は「基督教社会責任」と言う組織を発足させる。近代以後韓国にあって、基督教が社会の希望として組織を大きくした時期が二度あったと言う。一度は1919年の3.1独立運動期。二度目は1970年代から80年代の軍事政権下であった。徐氏は2004年11月22日三度目の大きな波を引き起こすべく、「基督教社会責任」というNGOを発足させた。この組織が担う課題として、①国家保安法問題、②私立学校法改正問題、③企業経営の透明化と労働者の利己心抑制のキャンペーン、④民間社会安全網構築作業、⑤均衡ある南北関係のための脱北者強制送還阻止運動を、氏は挙げている。韓国におけるクリスチャンの比重(人口)は大きい。2005年には貧しい国に自国のGNPの1%を援助しようという「先進化市民運動」も始めている。韓国がモラルのある先進国として生き抜いていくために基督者の社会責任を果たさなくてはならないかと言う運動である。この年2004年東亜日報はこのような運動をニューライト運動と命名した。

〈マッカーサー銅像撤去事件に抗して〉

2006年7月マッカーサーの銅像が撤去されると言う事件が起きた。この年の1月に金正日が出した指示に基づく行動で、全教組と民主労働党が主体となって実行した。1950年9月15日国連軍を率いてマッカーサーが仁川に上陸し、朝鮮戦争に介入したことは間違いであったと考える人3000人の破壊活動であった。この行動を評価しない徐京錫氏は、約50のNGOに手紙を出し、この事件をどう考えるか問うたが、返事は一通もなかったと言う。韓国の知識人の力量が弱体化した証拠として悲しく受け止めたと言う。

〈李明博政権誕生と氏の立場〉

かくして2007年に現政権が誕生した。マッカーサー銅像撤去事件は、金正日や親北勢力の意図に反し、李明博政権を生み出したが、徐氏らの市民運動がこの政権の誕生に大きく貢献したことは、経実連や基督教社会責任の運動からもうなずける。しかし氏は講演の中で「私は李明博政権から何の利益も得ていない。私は誰からも統制されない人間である。」と断言された。

第二部 北朝鮮の人権問題

〈米国留学中に北の真相を知る〉

徐氏が米国に留学した1982年は丁度在米コリアンが北朝鮮訪問を許された年であり、それから5~6年の間に約3千人の同胞が訪問した。1週間程度の訪問と一ヶ月以上訪問した人の北朝鮮の印象は、ひどく違っていた。氏は1ヶ月子供の家に滞在した黄海道出身のある老人から、北朝鮮は人権問題が深刻で、一切の個人の自由、言論の自由、居住移転の自由がなく、金日成の唯一思想だけが存在する社会であることを聞かされ、学生時代から抱いていた幻想がすっかり吹っ飛

んだという。また氏は学生時代から中国の文化大革命(毛沢東と4人組の指導)を支持していたが、アメリカで会った中国人留学生で文革を支持する学生は一人もいなかったことにも大きな衝撃を受けたという。1989年アメリカ留学を終えて韓国に帰るときには、韓国を社会主義国家に変えようという持論は見事に崩れていたという。スウェーデンなどの国が韓国のモデルになっていた。

〈わが民族助け合い運動〉

1996年氏は「ウリ(わが)民族ソコ(互いに)トッピ(助けること)運動」を開始する。当時北朝鮮では大量の飢餓が発生していた。彼は保守の大物を多くこの運動に動員し、1年間に100億ウォンを集め、食糧支援を行った。この運動の間は北朝鮮の批判はできなかったと氏は言う。(同じ年の6月以降朝鮮族教会を中国の鞍山とソウルに作り、担任牧師となり、出稼ぎ朝鮮族の不法滞在者国外追放に断食闘争をして反対するという活動も続けているが略する。)

ところが、2003年脱北者60数人が北に送り返され処刑されたというニュースに接し(注一煙台事件)、脱北者支援活動を開始する。北が「わが民族助け合い運動」を弾圧し始めたので、私は共同代表から降りた。

〈脱北者支援活動〉

脱北者に接してから、考えが変わった。彼らの話を聞いて、私は神の前に深く懺悔した。2008年の北京オリンピック開催までに中国政府による脱北者の逮捕と北への強制送還を止めさせようと、ヨーロッパ自転車キャンペーン活動を実行した。特に学生たちに参加を呼びかけて、北京オリンピック前に目的は達成されなかったが、この活動は今も続けている。日本の青年や学生たちに参加を呼びかけたい。

〈親北勢力と闘える勢力はキリスト教勢力だ〉

脱北者の話を聞き、神に懺悔して以来、私はかつての民主化運動の仲間たちの批判を開始した。パンか自由か。韓国の進歩的クリスチャンたちはパンさえ食べられれば良いと考えている。しかし、キリスト者の原則は、制度が民衆を抑圧するとき、その制度は変えられなければならないというものだ。北の体制は朴正熙政権の百倍以上の抑圧体制であるにも拘らず、進歩的クリスチャンは沈黙を守っている。金正日と結んで半島の平和を維持することは、北の民衆を切り捨てることだ。今の野党の民主労働党は親北勢力と手を組んでいる。親北勢力と闘える勢力はキリスト教勢力である。「基督教社会責任」はその先頭に立っている。

以上が去る5月29日の日本での徐京錫牧師の講演内容の紹介である。氏のホーム・ページ(www.suhkyungsuk.pe.kr)で見ることのできる氏の記事(ハングル文)を参照して内容を補った部分もある。文責はすべて報告者の私にある。最後に氏が北朝鮮の強制収容所にどのような認識を持っておられるかを示す一節を引用して、この報告を閉じよう。

「もしも政治犯収容所を解体して経済改革を行うことを条件に韓国が対北支援をすれば、北朝鮮は相当に変化するであろう。しかし太陽政策に立脚した今までの政権の対北支援は残念ながら核とミサイル開発を助け、収容所拡大などの人権弾圧を強化するのに利用された。」(「北朝鮮人権問題に対して我々は何をしなければならないか」2010、2、17徐氏のコラム)

【北朝鮮強制収容所の基礎知識】 < 8 >

強制収容所は憲法違反

NO FENCE 副代表 小川 晴久

東京大学大学院法学政治学専攻 二松学舎大教授・東大名誉教授(東アジア思想史)

中国は強制収容所である労働改造所や労働教養所の存在を法律で明らかにしているのに、北朝鮮は強制収容所の存在を一貫して否定してきた。強制収容所を第何号管理所と呼び、国家保衛部(秘密警察)七局(農場指導局)の傘下に置かれていることが明らかにされているにも拘らず(安明哲『月間朝鮮』1995年3月号)。私は長いことこの矛盾が分からないでいたが、今回漸くその実態が自国の憲法違反であること、従って北当局がその存在を認めれば憲法違反になることに気づいた。

一、(問い)なぜ北朝鮮当局は強制収容所の存在を否認するのか

(答え)自国の憲法に違反しているからである

社会主義憲法 第29条 「公民は人身及び住宅の不可侵、信書の秘密を保障される。法に基づくことなしには、公民を拘束し、または逮捕することはできず・・・」

北朝鮮の憲法と刑法を見る限り、強制収容所(管理所)の規定並びにその刑罰の根拠はどこにも記されていない。2004年に改定された刑法を見ても、ほとんどが2年以下の労働鍛錬刑であり、収容される場所は教化所(刑務所)である。「反革命分子は三代にわたってその血を絶やせ」(1968年金日成教示)は憲法や刑法のどこにも該当するところがない。後に記すようにこの教示は封建時代の発想で、現代の憲法には全くそぐわないからである。

二、強制収容所は超法規的措置である

今金正日の息子金正雲への世襲の準備が進行中であるという。社会主義における世襲制は北朝鮮だけである。世襲制は本質的には封建時代のものである。北朝鮮がおかしくなったのも、金日成の神格化、唯一思想(チュチェ思想)が登場する1967年からである。1968年強制収容所の中で大きな反撃(暴動)が起きたとき、金日成は「反革命分子は三代にわたって血を絶やせ」と教示したという。三代にわたってと言うのは、封建時代の罪九族に及ぶの思想である。

政治犯本人が裁かれるのは近代の罪刑法定主義に基づくが、血縁関係のある親兄弟や孫まで連坐させるのは、封建時代のものである。だから公開裁判は開けないのである。封建的性格を近現代の法規に記すことはできない。

三、超法規性は強制収容所を無法地帯とする

現行の北朝鮮の社会主義憲法(1998年改定)の序を見ていただきたい。金日成礼讃がこれでもかという形で行われ、この憲法は金日成憲法であるとまで宣言されている。しかし、憲法の本文は歴代のものが維持されていて、序と本文は全く矛盾する。敢えて言えば本文は社会主義の格調の高さを維持している。そこには言論、集会、信条の自由も認めている。金日成礼讃の序は1998年に突如として付され、憲法の前文に君臨するようになったのである。

序の金日成礼讃の美辞麗句とは正反対に、強制収容所の中は無法地帯となる。金日成・金正日一家の一人支配維持のため、あらゆる暴力が動員され、強制収容所はこの世で最も恐ろしい暴力の支配する空間となる。血のつながりのある者はすべて入れられ、無期限に暴力にさらされる。

四、素晴らしい頭脳と能力が大量に破壊されている場、強制収容所

チュチェ思想の最大の問題は、人間の自主性を強調しながら、それは金日成の指導を受けて始めて発揮されるとしたところにある。金日成の奴隷になれという条件と人間の自主性とは、全く両立しない。人間の自主性を守ろうとする人々は、金日成の思想だけを知っていれば良いという唯一思想に反対する。この自主性の立場は北朝鮮の憲法の本文が保障しており、これを憲法違反で裁くことができない。だから超法規的に裁判もなしに一家を丸ごと山の中の収容所に放り込むのである。

私たちは憲法違反の強制収容所を解体せよと叫ばなければならない。



ノーフェンス、山（困難や障害）を越え
ノーフェンス、自由を求め
ノーフェンス、虹（夢）を掴もう
ノーフェンス、すべて解き放して

目覚め立ち上がり、強くあろう
心は燃え、力を漲らせ
人が大地（抑圧、悲しみ）に泣いている
希望の光が見え、強く決意した

一緒に、愛と平和の歌を
堪えて耐えた、今こそ

ノーフェンス、山（困難や障害）を越え
ノーフェンス、自由を求め
ノーフェンス、虹（夢）を掴もう
ノーフェンス、すべて解き放して

目覚め立ち上がり、夢は諦めず
自身に誓い、強くあろう
人生には、必ず希望が
希望に向かえば、歩いていける

一緒に、愛と平和の歌を
この想い、海よりも深く



NO FENCE

NO FENCE OVER THE MOUNTAIN
NO FENCE, WE ARE LOOKING FOR FREEDOM
NO FENCE, CATCH THE RAINBOW
NO FENCE, WE'RE ALL FREE

GET UP AND STAND UP! (I) HAVE TO BE STRONG
MY HEART IS BURNING, I'VE GOT THE POWER
SO MANY PEOPLE ARE CRYING FOR THE NATION
I SEE THE LIGHT AND I'VE MADE UP MY MIND

WHY DON'T WE SING THIS SONG OF
LOVE AND PEACE
I CAN'T TAKE IT ANYMORE

NO FENCE OVER THE MOUNTAIN
NO FENCE, WE ARE LOOKING FOR FREEDOM
NO FENCE, CATCH THE RAINBOW
NO FENCE, WE'RE ALL FREE

WAKE UP AND STAND UP I'LL NEVER GIVE IT UP
I MADE A VOW AND GOT TO BE STRONG
WHILE THERE'S A LIFE, THERE IS A HOPE
I WALK TOWARD HOPE, I CAN GO ON

WHY DON'T WE SING THIS SONG OF
LOVE AND PEACE
MY FAITH IS, DEEPER THAN THE OCEAN

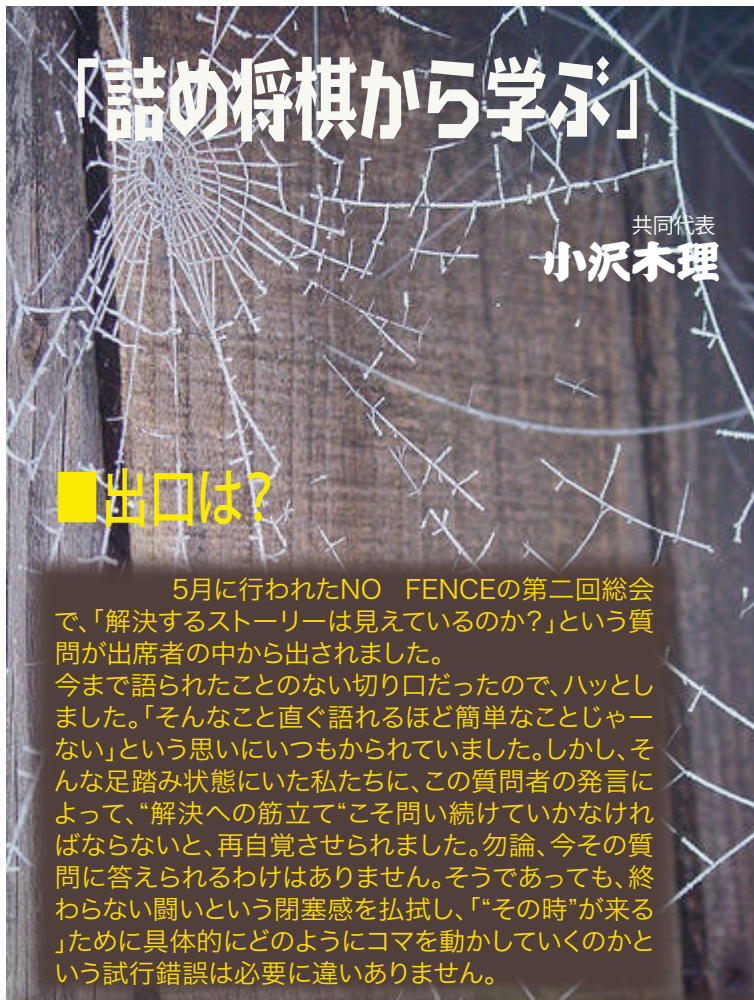


<NetLive 制作>

『NO FENCE』（作詞・作曲、歌唱、城間健市こと KEN1CHI）は、
広く皆様に歌われることを歓迎します。

【CD は、NO FENCE でも扱っています。】【頒価 / 600 円（郵送では、送料込みで 700 円）】
CD は英語の歌詞（訳詞は、その歌詞の日本語訳）で、心に響くハードロック調です。

■KEN1CHI=石垣島生まれ。4オクターブの声域と並外れた声量の持ち主。ハードロックからSOULMANIANフォーク、民謡アレンジャーまで歌いこなす実力派ヴォーカリスト。



「詰め将棋から学ぶ」

共同代表
小沢木理

■出口は？

5月に行われたNO FENCEの第二回総会で、「解決するストーリーは見えているのか？」という質問が出席者の中から出されました。今まで語られたことのない切り口だったので、ハッとしました。「そんなこと直ぐ語れるほど簡単なことじゃない」という思いにいつもかられていました。しかし、そんな足踏み状態にいた私たち、この質問者の発言によって、「解決への筋立てこそ問い続けていかなければならないと、再自覚させられました。勿論、今その質問に答えられるわけはありません。そうであっても、終わらない闘いという閉塞感を払拭し、「その時」が来る」ために具体的にどのようにコマを動かしていくのかという試行錯誤は必要に違いありません。

今までは、運動のやりかたについて、様々な立場の方が様々な考えを述べてこられました。NO FENCEは、ある考えから解決への具体的方策案に言及することをしてきませんでした。その考えとは、運動の考えかたや違いにこだわるより、むしろ本来の目的(北朝鮮の強制収容所の実態とその廃絶)を訴えることに限局して私たちのささやかな力を注ぐことを優先すべきだと考えたのです。

実際、北朝鮮の人権問題に取り組むNGOや個人間にも、全く考え方の異なる人はいますし、日本の人権派といわれる知識人や、市民間にも大きな隔りがあります。そういうモザイク様の人たちの考えを同じ方向へ向けたり、ひとつに束ねて行くことは事実上不可能でしょう。どちらが正論か否かの応酬にも出口が感じられません。

また、事実、北朝鮮の人権状況を改善させるための手だては、ひとつではなく複数の道があり、またそれが必要でしょう。ガンガンに固められ硬直化した今の北朝鮮を相手に臨むには、常識的な建前論や正攻法では無理で、柔軟な戦術なくして北朝鮮を動かすことはできないということも、誰もが知るところではないかと思えます。

しかしこれらの問題を抱えていても、やはり私たちは「解決へ向けてのストーリー」を描かずに、終わりの見えない目標に向かって歩き続けることはできません。

そんな課題を考える機会を、今年はいくつも与えられました。これから挙げる方達の全てを支持するものではありません。常に、客観的評価をし続ける必要があります。ここでは、あくまでその方々の発信内容の一端ですが、今後のヒントにすべく考えてみます。

■行き方の地図を探る

《北朝鮮要人の声》

日本政府は、4月に北朝鮮元労働党書記の黄長燁(ファン・ジャンヨブ)氏を、7月には同元死刑囚工作員の、金賢姫(キム・ヒョンヒ)氏を招聘しました。このふたりの招聘についての論評は、ここでは省き、北朝鮮の重要な任務を背負っていたこのふたりが語ったとされる内容を知ることができました。

4月来日の黄長燁氏の非公開の講演会(「会報8」参照)では、以下のようなことが語られたとあります。(黄長燁氏の話の出典:非公開の講演会に参加した「北朝鮮の帰国者の生命と人権を守る会」三浦小太郎氏報告から抜粋。 <http://hrnk.trycomp.net/news.php?eid=00210>)

『北朝鮮問題の解決には、第一に、徹底的な民主主義の原則の上に立って解決しなければならない。そして、民主主義の原則に立つならば、北朝鮮の主権者は北朝鮮国民である。しかし国民を抑圧し、すべてを奪い取る独裁者が主権者ではないが、残念なことに国際社会は、今の北朝鮮の独裁者を主権者とみなしてアプローチや交渉しようとする国が多い。

その間違ったアプローチの実例として、たとえば核や何らかの問題解決の取引として、北朝鮮の現体制の保障をするような姿勢は根本的に誤っている。しかし、現実的には、現在の北朝鮮は国家として国連にも加盟し、国際的にも承認されているので無視することは難しい。この現在の独裁体制に対しては、敬して遠ざける、つまりできるだけかかわらず直接交渉を避けるのが望ましい。』

さらに、『北朝鮮との対話路線に対しては、政権は内部の国民に対してと同じ態度を外国に対しても取るものであり、300万の自国民を餓死させた政権が、遠い外国と友好的に関係を結ぶはずもない、今の金正日はヒトラーのような独裁者であり、彼に対して期待しても交渉してもまったくだめだろう。繰り返すが、その存在は認めても交渉の相手ではない。』

『金正日との戦いは軍事面ではなく、思想戦、外交戦、精神的戦争なのだ。そのためにはNGO等を通じて、北朝鮮の人権侵害の実態を大いに国際社会に知らせ、金正日を孤立させること、それもまた中国が北朝鮮を動かすことにもつながる。これは軍事力を使う費用よりもはるかに安価で、かつ効果が上がることだ。』と、平和的な人権侵害を訴える方法で北朝鮮を変えていく可能性を指摘。

『…以上のような形で、中国を巻き込んで、北朝鮮問題を解決していくためには、日米韓をはじめとする民主主義陣営の団結をいっそう強めていくこと、同時に思想的には、民主主義国家が各国の国益や国家を基本単位にした発想を少しずつ変えていく、民主主義が国家本位主義から脱していくことが必要。』といったことを述べたとあります。

また、同様に現北朝鮮体制を良く知る立場にある元北朝鮮工作員の金賢姫氏は、拉致被害者家族との面会のため招かれた軽井沢の別荘で、北朝鮮との交渉について「北朝鮮の意思を尊重した上で、プライドを傷つけないよう話をしていかなければ解決にはつながらない」と考えを語ったといいます。(毎日新聞2010.7.20)

裏を返せば、「経済制裁などの圧力を加えるだけでは、現体制の崩壊や民主化を促すなどということは現実的ではない」と受け取れます。

《韓国市民団体の声》

一方、5月には、当会主催で、韓国市民社会運動家の徐京錫(ソ・ギョンソク)牧師の講演会が行われましたが、(その時の講演内容については、別途小川晴久氏の報告が本号に掲載。)その徐京錫氏の考えがかなり反映されていると推測される氏がまとめた<北朝鮮人権問題についての市民団体報告書>(以後、「報告書」)があり、そこには、韓国のNGOたちが北朝鮮の現状を冷静に俯瞰的に捉え、政府や市民に向けた提言がまとめられています。

『北朝鮮の人権問題に対して 私たちは何をすべきか』

「報告書」は、副題として『北朝鮮の人権問題に対して私たちは何をすべきか』とあり、冒頭には、「2010年1月14-15日、国家人権委員会、北朝鮮自由移住民人権のための国際議員連盟(IPCNKR)、北朝鮮人権団体連合会は共同で北朝鮮人権問題政策協議会を開催し、この席には国内外の北朝鮮人権団体と統一部、外交通商部、国家人権委員会など48のNGO、政府、国会関係機関および団体代表が参加し、8つのセッションにわたり北朝鮮人権運動に関する集中した深い議論を行った。この報告は今回の政策協議会での議論を土台に北朝鮮人権団体の立場を整理したものである。」と説明があります。(この報告書の全文は、NO FENCEのホームページに掲載。)

ここでは紙幅の都合上、目次の前半「1.北朝鮮現実に対する認識2.北朝鮮人権問題を見る視点」についてだけその要約を紹介したいと思います。

1.北朝鮮の現実に対する認識

まず、[北朝鮮の現実に対する認識]では、
「①北朝鮮人権問題の核心は、北朝鮮がヒトラー式強制収容所で反体制人士を体系的に虐殺しており、全北朝鮮住民が金正日政権の抑圧と暴力にむき出しでさらされているという点」そして、
「②金正日政権は北朝鮮住民を思想教育による統制、配給制による統制、政治犯収容所と保衛部による恐怖政治による統制で一貫してきた。しかし破局的な経済難で配給が中断し思想教育と配給制による統制が有名無実になった。これに伴い、金正日政権は1995年『先軍政治』を標ぼうし、既存の形式的寛大さを廃棄して、ひたすら銃剣による無慈悲な統治に転換した。」と説明しています。

さらに、「③配給体制が崩壊し、絶対多数の人民は自ら生きる道を探す結果配給を代替する市場が形成された。(中略)こうして現在の北朝鮮は配給制階級と自力更正階級に分離し、党・政・軍の権力集団は外部支援に頼る配給制で、一般住民は市場を通じて生存する状況になった。これに伴い、外部支援は一般住民とはほとんど関係がなくなった。そして過去には北朝鮮人権改善のために国際社会が圧力を加えることが不可能だったが、今は北朝鮮政権が外部の経済支援なしには持ちこたえられなくなり、外からの圧力が可能になった。もし政治犯収容所を解体して経済改革を行うのを条件に、韓国が対北朝鮮支援をしたならば北朝鮮はだいぶ変わっただろう。しかし太陽政策に立脚した過去の政権

の対北朝鮮支援は、残念なことに北核とミサイル開発を支援し、収容所拡大など人権弾圧の強化に利用された。

」
また、「④このような状況で最近北朝鮮は貨幣改革の失敗で絶対多数の人民の民心を失い、金正日政権に対する住民の不満は一層高まっている。したがって韓国政府は金正日政権の抑圧体制を維持・強化する対北朝鮮支援政策から脱却し、北朝鮮住民の人権改善に寄与する方式の条件付き支援政策に方向を変えなければならない。そしてこの際、北朝鮮政権を通じての支援方式ではない、脱北者や朝鮮族を通じての支援方式など多様な支援方式を開発しなければならない。」と述べています。

つまり、韓国政府は北朝鮮住民の人権改善を条件に支援すべきであること、しかも直接北朝鮮住民に届く方法でなければならないとしています。

2.北朝鮮人権問題を見る視点

次の、テーマ[北朝鮮人権問題を見る視点]では、まず「(利己的保身的)平和優先主義は、持続的平和をもたらさない。」ということと、「北朝鮮の人権改善を考えるふたつの立場」について書かれています。かいつまんで説明します。

1)では、「韓国社会は、韓国だけの平和を優先する『平和優先主義』『平和至上主義』とするのではなく、北朝鮮住民の人権改善を実現させることが、南北間の持続的な平和をもたらすことに繋がる」という趣旨のことが述べられています。***以下は、抜粋です。

1)韓国社会は『平和優先主義』『平和至上主義』に反対しなければならない。

(韓国の)過去の二つの政権が北朝鮮人権問題に対して沈黙した代価として私たちに戻ってきたものは、核兵器開発と平和を担保にした脅迫だけだった。何より私たちは過去の民主化勢力が北朝鮮の深刻な人権じゅうりんに対して沈黙するのを納得できない。過去の民主化勢力は軍事政権が経済発展のために民主主義を一時留め置かなければならないといった時、「パンだけでは生きられない、自由でなければ死をよこせ」と要求した。それにもかかわらず彼ら(過去の民主化勢力)は今北朝鮮の人々に「パンだけで生きる」と語っている。(中略)
人権なき平和は真の平和ではない。この点で北朝鮮住民の人権改善と南北間の平和実現は分離できない。南北関係の実質的な進展を評価する物差しも人権でなければならない。金正日政権との友好的関係だけで南北関係が実質的に進展しているとは言えない。

2) 私たちの社会には北朝鮮人権改善を見つめる二つの立場が共存している。

●何よりも一日も早く北朝鮮で独裁が終息し、北朝鮮人民が解放されなければならないので、北朝鮮民主化のための運動を積極的に展開しなければならないという立場がその一つだ。(中略)過去軍事独裁下で韓国国民が民主化運動に乗り出したように、このような北朝鮮民主化運動を展開するのは極当然のことだ。誰もこのような動きを防ぐことはできない。

●他の一つは、一日も早く北朝鮮の独裁が終息しなければならないという点には同意しながらも、南北間の現実に合うように対処しなければならないという立場だ。韓半島で緊張状況を管理して北朝鮮と対話して交流しなければならない政府、国会など主流社会が公けに北朝鮮独裁の終息を主張すれば、南北間の平和を維持し関係改善を成し遂げることはできない。主流社会の立場では北朝鮮人権も重要だが、これに劣らず韓半島で戦争が起きないように北朝鮮を管理することも重要だ。

したがって韓半島の平和と北朝鮮人権を同時に追求しなければならない。そうすると北朝鮮人権に対する主張は漸進的で現実的にならざるをえない。死亡した国軍および戦争時に北へ拉致された遺骸送還、生存した国軍捕虜と戦争・戦後北に拉致された人の自発的帰還、離散家族の全面的な再会、宗教自由の実現、支援食糧分配の透明性保障、法による裁判、居住移転の自由、政治犯収容所の廃止など、北朝鮮体制を正面から威嚇しないながらも、実現可能な人権問題から実現していかなければならない。アジアで最も人権が実現されない国がミャンマーならば、北朝鮮がミャンマーの水準にでもなってくれということだ。それによって北朝鮮住民の人権が改善され人間としての最小限の尊厳が回復して生存権的な苦痛が軽減され国際社会の一員として軟着陸することを願っている。北朝鮮住民の人権が改善されれば北朝鮮社会の硬直性も減り、それだけ北朝鮮が国際社会に軟着陸する可能性も大きくなるだろう。

3)この二つの立場の役割分担と相互協力が要だ。

北朝鮮人権改善を見つめる二つの見解の違いは、実は見解の違いというよりは立場の差の面が大きい。したがって二つの立場は互いに対立するのではなく互いに相手方を理解して役割分担をしなければならない。韓国政府や主流社会は当然北朝鮮と対話して交流しなければならない。そうするならば相手方を認めなくてはならない。したがって彼らは人権改善のために努力する時にも相手方を認める枠組みの中でするほかはない。

しかし北朝鮮の人権改善は主流社会の努力だけでは充分ではない。これに劣らず重要な点が北朝鮮住民に外部世界の消息を知らせて北朝鮮を民主化しようとする運動だ。このような圧迫がなければ北朝鮮は絶対に人権改善の道に進まないだろう。

したがってこのような努力を『北朝鮮を崩壊させようとする意図』と罵倒するのは正しくない。万一、北朝鮮が崩壊するならば、その責任は最も基礎的な人間の権利さえも認めない北朝鮮当局にある。そして民主化運動の結果、北朝鮮の人権が少しでも改善されるならば、北朝鮮が明るい未来に向かって一步前進することになるだろう。

北朝鮮人権運動の当面の目標は国民皆が平和優先主義、平和至上主義を拒否して以上の二つの立場の中の一つを選択するようになることにある。

“ふたつの立場”“ふたつの役割分担と相互協力”

「報告」にあるここまでの記述から、一番示唆に富むと思われることは、“ふたつの立場”“ふたつの役割分担と相互協力”という考え方です。

恐らく共有できることは、《どちらも最終的には北朝鮮の人権状況の改善》という共通目標であることです。このふたつの立場、役割が、共通の目標に向けてどのように綿密で的確な策を立て、多様なコマを進めていくかであり、またそれしかないのではないかと考えます。

“対立”ではなく、この“ふたつの役割分担と相互協力”という整理の仕方は単純ですが、今まで着地出来なかった考え方であったので、私としてはひとつ気持ちの整理が出来た気がします。

さらにこのあとの報告では、交渉は、“すべてのレベルで北朝鮮人権問題を議題に含ませなければならない”という理念が貫かれ、韓国の政府や市民に向けた具体的な提案が続きます。

人の命は、今も待たなし、一刻も早く改善させねばなりません。しかし、一手で、「王手!!」は困難で、黄長燁氏や金賢姫氏を含め、多角度的な視点で、多様なコマを打って詰めて行くのが成功法なのかもしれません。今はまだ、手持ちのコマと、その使い方の智慧が不足です。

